「私達のいとなみが創る千歳の風景」

～本業（なりわい）を通して、そして市民としての暮らしの中から～

以前のバブルの頃は、猛烈に仕事をしてそのストレス解消に思いっきり遊んでという極端なライフスタイルがもてはやされました。しかし、今は、仕事もします、家庭人としても充実したい、個人としても充実したい、地域の中でも役割を果たす。そういう名刺が幾つかある、顔が幾つかある、そんな多面的な生き方が意味を持つ時代だと思っています。そういうことで、“本業（なりわい）を通してまちづくりに関わる”という所と“市民としての暮らしの中から千歳の風景を創っていく”そういう話をしたいと思っています。

なぜ、今“景観”なのか？

なぜ今景観なのか、景観を創ることと皆さんの生活はどう係わるか、それから景観のとりまく状況を皆さんどう感じていらっしゃるか、それから本業を通してまちづくりをどう考えていけばいいのか、さらにこれから市民としてどう関わっていけばいいのか。そういうことを考えていきたいと思います。

何故、今、“景観”なのか？

- **景観形成は地域の生活とどう関わるのか？**
- **景観形成～地域づくりを取り巻く状況は、今どうなっているのか？**
- **何故、本業(なりわい)を通して考える必要があるのか？**
- **これから、市民としてどのように取組めば良いのか？**

(1)“住民の暮らし＝いとなみの様式”(ﾗｲﾌｽﾀｲﾙの)反映

従来、景観は、どちらかというとモノの形の面を捉えて言われることが多かったのですが、実はモノの形だけではなく、暮らしだとかライフスタイルを反映したものが景観を創っていくと私はつねづね思っています。そういう点からは「地域らしい暮らしの場を、どのように守り創り育てていくか」といった課題があると考えています。

もう一方では“そこでどうやって暮らして行くか”という事との関わりがあります。ですから、今日はこういう事について、皆さんと考えていきたいと思います。

(1)“住民の暮し＝いとなみの様式”（ライフスタイル）の反映

①“自然の風景”や“都市施設”＝建物や道路、公園等といった“環境”や “もの”の景観が美しい ということだけではなく、地域に伝わる歴史・文化や気候・風土を反映した生活様式や四季折々の暮しの風物詩、さらには、地域の産業：生業（なりわい）がもたらす活気（人や物の動き）や独特の雰囲気等が重なり合って“その地域らしさ”を創り出す。

⇒＊“地域らしい暮らしの場”をどのように、まもり、つくり、そだてて行きますか？

②地域の人々の“気質”や、地域における暮しぶりの中に表れる“ふれあい”、“やさしさ”、“おもいやり”や “地域の暮らしの中でのマナー”などが、自然ににじみ出し、その地域 の景観を彩り、この地域にはどの様な人々が住んでいるのかが、他所から地域を訪れる人に伝わる。

⇒＊この地域で、何を大切にして暮らして行きますか？

(2)地域のまちづくりへの波及効果

(2)地域のまちづくりへの波及効果

①生活環境のレベルアップ効果：

・労働環境の美化＝農林漁業/製造業/商店＆商店街/事業所等の建物・作業環境等の整備
・居住水準向上＝住宅・庭・団地などの環境整備
・各種公共施設・環境＝学校/福祉・医療施設/庁舎/文化施設/集会所等の整備・充実
・都市基盤施設・環境＝公園/道路/河川等の整備･充実
・野外レクリエーションのフィールドとなる自然環境の保全や施設環境の整備・充実

②地域のイメージアップ効果：

・定住意識の高揚（地域への愛着と誇り）
・コミュニティ意識の形成
・観光資源の魅力増強（イメージ発信力と集客力と滞在体験の魅力）
・地域の産品の高付加価値化（地域ブランド）
・環境・景観に対するモラルの向上

大きくは環境のレベルアップなど、ここに示したような様々なことがあります。もうひとつは、対外的な意味でも地域のイメージアップの効果があると思います。

地域で建築に関わる専門家としての皆さまの本業を通じての関わりと地域に暮らす市民としての関わりの両面からやっていくということ、それらについて、この後事例を通して見ていきたいと思います。

＊魅力ある景観が形成されることは、「地域の活性化」や「地域らしい暮しの実現」につながると考えられ、地域のまちづくりに大きな関わりを持っているのです。

＊住民主体のまちづくりとして、地域の知恵と力：人材と資源の活かして、何が出来るのでしょうか？

＊そこには、二つの側面があると思われます。

⇒

○地域で建築に関わる専門家としての本業を通じての関わり

＋

○地域に暮らす市民としての関わり

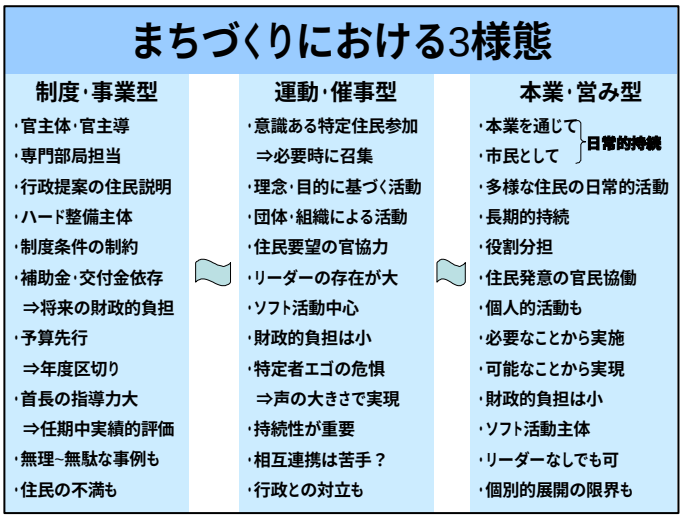
景観への取組みの意義：取り組む主体にとって

今日皆さんは、こうやって１日の仕事を終えて、現場をやって来た方は寒い中から暖かい所に座っていると眠くなるかもしれませんが、そういうなかで、こうやって熱心に勉強していますが、どういう意味があるかというと、私自身はこのスライドに示したような事かなと思っています。

景観への取組みの意義：取り組む主体にとって

◇愛する自分のまち、暮らしの環境を、しっかりと見る機会になる。
◇自分のできること：能力と役割を考える機会となる。
◇取組む仲間との目標の共有や役割分担と連携･支援によって付き合いが深まり、人脈が広がる。
◇地域社会への貢献を通じて喜びとやりがいを実感出来る。
◇自分のまちへの愛着が強まる。

まちづくりにおける３様態



それでは、住み良いまちってどんな所でしょうか？地域の方々とまちづくりに取り組んでいますが、以前とはまちづくりのありかたが変わってきています。以前のまちづくりは、市民は行政に注文をつけたり文句をつけたり、ああして欲しいとかこうして欲しいということを要求するといったことだったのですが、最近はどうもそれだけではないなということで、「運動型」だったり「イベント型」だったりという動きが出てきています。

従来は、ここに書いてありますように、こういう枠組みの中で国や道の制度を使って行政の担当者が、首長が示す方針に基づき補助金を活用したり、制度のしばりのなかで予算を付けて何を作ろうかという事を考えていました。そして、だいたい決まったところで担当部局がこういう事をやりますと住民に説明していました。この中には、結構無駄なことがあったと思います。千歳がということではなく一般論です。市民の方がこうして欲しいというと、「事業の制約で出来ません」とか「予算の関係で出来ません」とか「単年度では出来ません」ということがありました。

そういうこともあって、行政だけには任せていられないからできることは自分達でやるという「運動型のとり組み」が始まってきました。皆さんもそうかもしれませんが、意欲のある特定の住民やリーダーが声をかけて理念に基づいて、組織を作っていろいろやる。ただ、その中にはいくつか問題点もあります。声の大きいところががんがん言うから取り入れざるを得なくなって、「地域エゴ」になったりとか。ある人達がやっているとあいつらのやっている事は手伝わないとか、おもしろくないとか、なかなか長続きしないとか、一部には行政と対立したりとかいろんなことがあります。もう一方では、最近少しづつＮＰＯとかボランティア等のコミュニティ活動が始まっています。どれがいいということではないのですが、「さまざまな側面があるからこれを使い分けましょう」ということで、今の国の制度でいうと、“ 都市再生 ” とか “ 地域再生 ” とか “ 特区 ” などの制度を活用して仕組みをつくって、地域活動と連動するような手法が一番良いのではないかと思います。

まちづくり～公共サービスを巡る環境の変化

従来のまちづくりとか公共サービスの現況が、少しずつ変わってきました。これは、昨年まで私も手伝っていました市民協働のあり方を検討する都市経営会議の中で議論してきたことです。求められるサービスが、多様化してきて価値観や社会情勢が変わってきました。それから、自治体の状況や国の仕組みも変わってきました。それを背景として、まちづくりも変わってきています。一方では、私は結構地域の現場に出るのですが、こういう勉強会、あるいは終わった後の飲み会で結構本音の話を聞きます。皆さんの回りでは、どうでしょうか？

まちづくり～公共サービスを巡る環境の変化

□人々の暮らしの価値観の変化
⇒ ・求められるサービスの多様化
□地域社会情勢の変化
⇒ ・少子高齢化
・コミュニティの変質
□自治体財政の逼迫・困窮
⇒ ・公共サービスの負担に限界
・受益者負担の必要性

＊一方では、地方自治体の行財政改革の動きも・・・

今、地域のまちづくりの現場から聞こえてくること

皆さんはお父さん達だったり、お母さん達であったり、若者であるでしょう。いかがでしょうか？それから千歳ではどうでしょうか？

今、地域のまちづくりの現場から聞こえてくること

＊地域住民は、各年齢層に応じた課題や悩みを抱えている。

例えば・・・

○子供達は ⇒
- 自由に安心して遊べる場が少ない。
- 地域のことを学ぶ機会が少ない。

○若者達は ⇒
- 自分の能力を活かして働く場がない。
- 交流の機会や仲間と集う場がない。
- 最新の流行に接する機会が少ない。

○お母さん達は ⇒
- 子育ての相談相手や支援が欲しい。
- 自分を磨く学習機会が欲しい。
- 社会に貢献できる活動に参加したい。
- 子育てが終わっても働ける場がない。

○お父さん達は ⇒
- 仕事が忙しくて地域活動に参加出来ない。
- 地域活動の役割が多くて、負担に感じる。
- 異業種の人との交流の機会がない。

さらに、特に、

○お年寄り達は ⇒
- 病院に通うのが不便だ。
- 日常生活上の介護や支援が欲しい。
- 買物,公共施設への移動手段が不便だ。
- 今は、元気だけれど万一の時が心配だ。
- まだまだ元気だけど働く場がない。
- 社会のお役に立ちたいが自分の能力を活かす機会がない。
- 世代間の交流やふれあいの機会がない。

などなど・・・ 千歳では、皆さんの地域では、どうですか？

従来は、これらを解決するのはお役所！？

このあたりは、先程言いましたように、従来役所がやってきたことです。しかし、どうも役所だけでは出来ないと言う声もある。最近では夕張の例みたいなこともあって、行政だけにすべてを求めるのは無理、負担も増える。だけど好きな仕事をして好きなまちで暮らしていきたい。そういったことを見通していけるためには、まちづくりの取り組みの前提が協働の充実を図っていくことかなと思っています。

□従来は、これらを解決するのはお役所！？

しかし、これらすべてを公共サービスとして対応して行くことは現実的でなくなりつつある・・・

今や、地域の自治体に、それを求めるのは無理！

とはいっても、好きな地元で暮らして行きたい！！

では、地域に住み続けるために必要な環境と生活支援サービスを如何にして確保出来るのか？

そこには、従来とは異なる“新しい仕組み”が必要なのではないか？ その鍵が “協働”！

まちづくりにおける協働の必要性

ここに書いてあることに関わっていかなければいけないということは、皆さんも漠然とは感じられるかなとは思います。

まちづくりにおける協働の必要性

以前は、国の制度～公共事業投資に基づいた自治体による事業型のまちづくりが中心であったが、これからのまちづくりにおいては、制度・事業型、運動・催事型、本業・営み型の役割分担～使い分けが必要。

さらに、
- **○制度・事業型も**
- **○運動・催事型も**
- **○本業・営み型も**

そのメリットを発揮し、デメリットを解消するためには、“協働型”にシフトして行くことが必要。

では、「協働」の概念とは？

まちづくりにおける“協働”とは

本来行政がやっていること、住民がやっていることとの間の部分に協働があって多様なニーズに対する多元的な判断があります。行政はできるだけ、住民の一部の人達、町内会とか団体とか企業とかだけではなくより多くの市民と目標を共有して情報も共有して役割分担をして、一緒にやりたい。「どっちがやるの？」ではなく、相互に応援したり、出来ないところを補い合っていくということです。対等な立場で参加する。それから、相互に信頼して、責任分担していくということです。

まちづくりにおける“協働”とは

○一般概念における協働：
主体同士が相互の信頼と理解に立って、共通するひとつの目的に向かって協力して働くこと

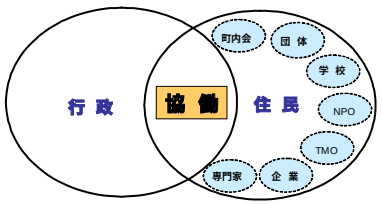
○まちづくりにおける協働：多様な定義づけ

ex.「市民、企業、行政等が各役割を十分に果たしながらも、相互に積極的に関わり、プラスの作用を与え合うことによって、結果として効果を最大にするような連携のプロセス」

ex.「市民と行政が対等な立場で責任を共有しながら、共通の目標の達成に向けた連携をするものであり。市民の主体性が尊重されるまちづくり参画の考え方」

ex.「市民の自主的な行動のもとに、市民と行政がよきパートナーとして連携し、それぞれが自らの知恵と責任においてまちづくりに取り組む姿勢と、そのための仕組み」

＜協働の概念とそれを支える条件＞



○多様なニーズに対する多元的な判断に基づく対応
○目標の共有、情報の共有に基づいた役割分担と連携・支援・補完
○対等の立場で主体的に参画
○相互信頼と責任分担
⇒＊行政・住民それぞれの意識改革・自己研鑽・能力向上
＊協働を可能にする仕組み～システム～体制の整備・充実

“協働”と従来の「住民参加」との違い

従来の「住民参加」と「協働」とはどこが違うかということですが、従来はどちらかというと、行政が政策や計画を作って、事業を実施していました。行政が声をかけて、住民説明会を開催して意見を聞いて要望を反映していくという手法でした。ですから、地域の方もどちらかというと意見を言うときに、「これはこうしてほしい」、「私達の地域ではこうしてほしい」、「うちらの業界ではこうしてほしい」といった、自分の利害や地域の利害に片よりがちです。

“協働”と従来の「住民参加」との違い

＊従来の「住民参加」：

○行政の管理下で、政策の立案、計画の策定、事業の実施、検証などの過程に加わる行であり、責任は行政が負う。

○行政からの召集で、住民は説明を受け、意見を言い、要望を反映させる役割に留まるレベル。

○公益・公共への貢献よりは、自分の利害、地域の利害中心の要求になりがち・・・。

それに対して「協働」は・・・

それに対して、協働は少し違ったところが出てきます。ここに書いてある幾つかのことがあります。ここの所を、きちっと定めようという事で、今、千歳市の市民協働を推進するための条例が組み立てられているところです。

それに対して「協働」は・・・

①「協働」は、住民の持つ豊かな経験に基づく知識や郷土愛に基づく活力を活かし、住民と行政が対等の立場でお互いに理解を深めながら進める。

②「協働」は、行政の果たすべき役割や責任を民間に移して減らすものではなく、より良い住民サービスの提供をめざす。

③町は、住民に最も身近な行政体として、発想～企画～計画～実施～評価までの各段階の様々な場面での協働を行う。

④町は、協働を進めるにあたって、行政や市民活動の弱点を補い、また、専門性や地域性など、それぞれの特色を生かす。

“ 協働 ” に期待される効果

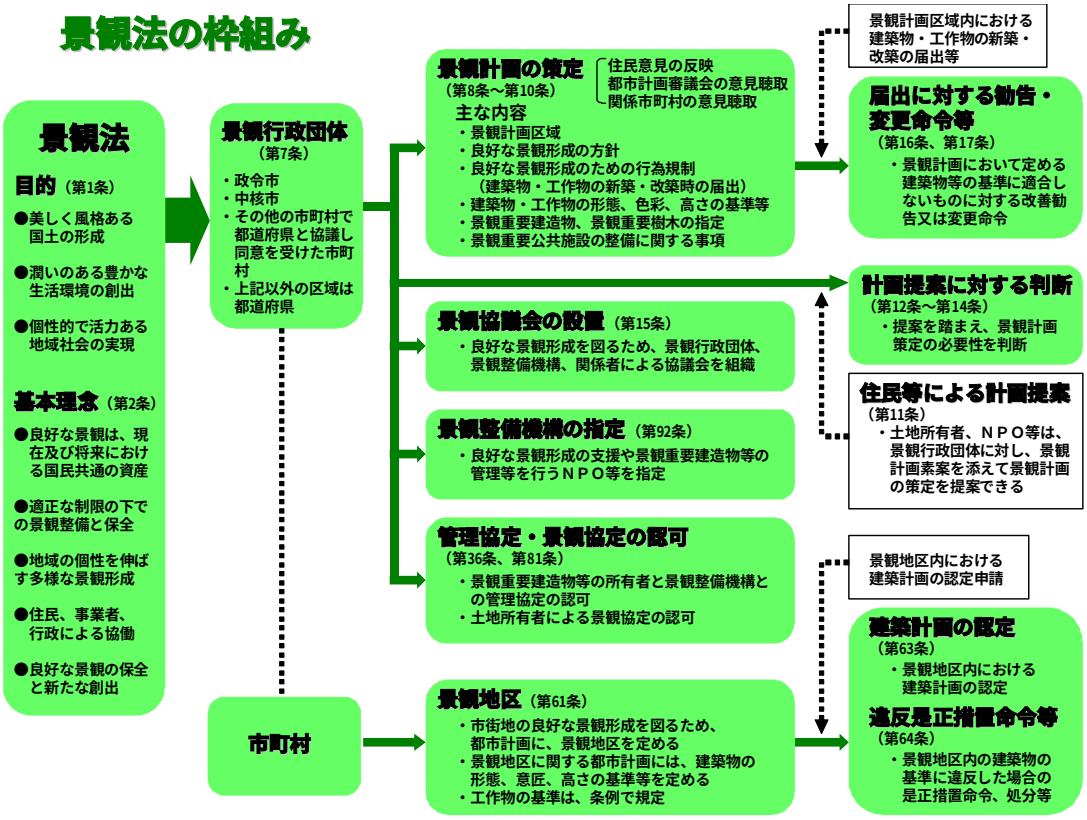
協働に期待される効果としては、行政の都合が良かったりとか市民が便利になったりということだけではなくて、「相互理解と協力による新しい公共の実現」「公的サービスの質の向上」「地域コミュニティーの再生」「新たな事業展開や創業」など様々なことがあります。

“協働”に期待される効果

①相互理解と協力による新しい公共の実現
⇒：信頼感の回復と公共意識の醸成
②公的サービスの質の向上
⇒：多様なニーズに対応したきめ細かいサービス内容
：「ムリ」、「ムダ」、「ムラ」の削減・解消
③地域コミュニティーの再生
⇒：暮らしやすさ
：愛着～定住意識
：社会参加～自己実現（やりがい、生きがい、働きがい）
④新たな事業展開や創業
⇒：コミュニティビジネス
：就業機会の増加

景観法の枠組み

今言ったように、いろいろな環境が関わってきます。特に景観に関しては、景観法と言う法律が２年程前に出来まして、地域の様々なことが変わってきます。皆さんのお仕事も変わってくるはずです。下に示すのは、国が作った資料ですが、景観法の目的や基本理念があって、市町村で取り組まれている様々なことや皆さんのお仕事にも関わってきます。具体的には、皆さんが今後確認申請をしたり、設計をしたり、地域で工事をしたり、という局面で関係が出てきますので、この仕組みと流れを頭の片隅に記憶しておいてください。



市のガイドラインに基づいた景観形成への取り組みステップ

さて、千歳では景観の取り組みはどうなっているのでしょうか？ちとせ都市景観ガイドラインというものが出来ています。

子どもたちのためのジュニア景観士講座「子どもまちなみ探検隊」というものを４年間やって来ました。知っているとか、聞いたことある方いますか？手を挙げて頂けますか？聞いたことがない？だそうです。情報の共有が出来ていない。そうかなと思ってスライドを用意しました。データは、後ほど市に差し上げますので使ってください。

市のガイドラインに基づいた景観形成への取組みのステップ

①対象をはっきりさせる＝“何が”、“何を”
　＊みんなで**候補を挙げる**：ワークショップ／アンケート／ご意見箱
　＊みんなで**現場を確認する**：ウォッチング
②それに対応する方法を考える＝“どのようにして”
　＊3つの“**る**”＝「まもる」－「つくる」－「そだてる」～（「ととのえる」）
　＊3つの“**す**”＝「なくす」－「なおす」－「かくす」～（「もどす」）
③具体的取組み手法を決める＝“何を”、“誰が”、“いつから”、“どのように”
　＊**先ずどこから／何から**：優先順位
　＊**行政／町民／事業者の役割分担**：活動・整備財源／ノウハウ／人材等の面で
　＊**取組みスケジュール**：年間計画／年次・段階計画／整備的事業／継続的運動
④細かいことに拘らず、出来ることからやってみる＝“トライ”＆“チャレンジ”
　＊取組み成果を“**目に見える形**”にして、みんなで評価・検証する。
　　（誉めたり、けなしたり、見直したり、反省したり、励ましたり、提言したり・・・）
⑤良いところは伸ばし、まずいところは改めながら取組みを続ける
　＊“**継続は力なり！**”

ジュニア景観士講座と言うことで、実は景観のガイドプラン、ガイドライン、景観形成基本計画を作った構想の中に、今日皆さんにお集まり頂いたようなものを含めた景観士講座をやるようなことをきっちっと組み立てていきましょう。というのがありました。実は当時の構想としては景観アカデミーという名前が付いていました。一足飛びにそこには行かないものですから、それに向けてのステップとして４年前から始めました。

目的としては、千歳のことをよく知ってもらって、参加する楽しさを子ども達に経験してもらう。それから、それを通じて意識の向上を図る、公共心を持ってもらえるように、そのきっかけになればということで始めました。参加した子ども達は、たぶんこのことは感じてくれていると思います。

行政とやるときに、いつも私がうるさくいっていることは、やるのはいいけどやりっぱなしにしない。きちんと検証して良いところは伸ばす。悪いところは、あらためる。ということをやっています。

今日の報告例は平成 15 年に実施したものです。私と「ＮＰＯ法人景観ネットワーク」のメンバーが手伝い、二日間にわたり朝から晩まで探検しました。駅周辺とサーモンパークをカメラを持って、なるべく楽しくやる。やったんだと言う証になるものを、帰りにもっていってもらう。と言うことを初年度に言いたい放題注文をつけて一つくらい出来ないと言われるかと思ったのですが、当時の担当者が、非常に努力をしてすべて取り入れてくれて、今のやり方が実現しました。ですから、子ども達が非常に喜んで楽しんでやってくれました。参観に来た学校の先生だとか親御さんがこんなに子どもが生き生きとやってくれるのですね。と言われるくらいです。やりっぱなしにしないために、成果の展示会もやって、広報ちとせにも２回に渡って載せて、ホームページにも載せているのですが、関心もって頂いているはずの建築士会の方々

に伝わっていない。ということで私も含めて反省しております。

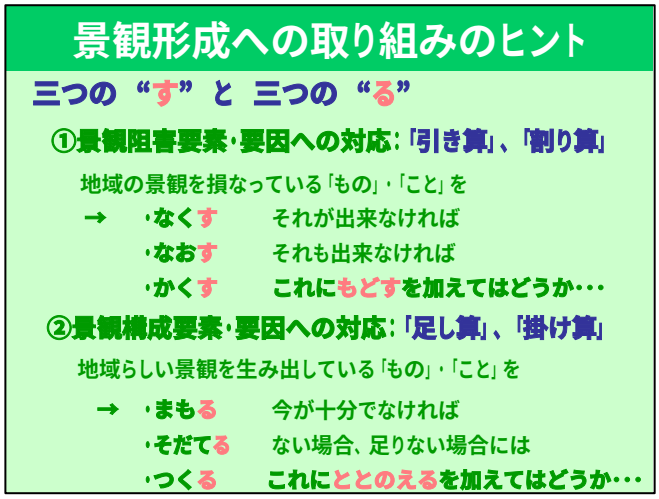
こういうアイコンを作って楽しめるようにしました。そろそろオリジナルアイコンの傑作集を出版出来るかな。というぐらいの所になっています。あと、なりきりカードということでいわゆるロールプレイングゲームですね。いろいろな役割になりきって、そういう目でまちを見てレポートを書いてもらっています。子ども達は、結構おもしろがってやってくれています。駅前から市役所まで探検し、終わったらライセンスカードを渡します。実はライセンスカードを私も持っています。ライセンス番号１番です。そんなことで、終わった後にファンファーレをかけて首に掛けて子ども達に渡すと、うれしそうに持って帰ります。ただ、持っている子には、ちゃんと使命感をもってまちなみ形成に関わってね、ときちんと伝えて。だから、景観士になれたのですよ。ということでやっています。

実は、４年間やりました。そうしたら、当時小学校６年生で参加してこのライセンスカード持っている子は高校１年生なのですね。だから、地域でイベントをやるとき手伝って、といったらライセンスカード持っている子ども達が手伝えるのです。皆さんも、高校生に力を借りたいということがありましたら声をかけてやってください。

子ども達には熱心に取り組んで頂きました。帰ってきて、午後からワークショップをして作品を作ります。グループごとに作業して発表してもらいます。見ていておもしろいのが、いろんなチームがありまして、喋ってばかりいて作業の出来ない人、やみくもに作業して後になって困る人、最初時間をかけて考えておいてその後は計画通りにてきぱきとやる人、発表する段階になるとうまくまとめてきちんと発表する人。どっちかというと女の子の方が優秀です。

今日も女性の方が来られていますけど。私の持論としては、まちづくりは、おやじだとか子どもだけでやってはだめです。女性が入らないと力を発揮できません。経験では、都市経営会議もそうでした。男性は、組織とか会社とか、身分とか年齢とか引きずってしまいます。女性は建て前がなんぼのもんじゃい。と本音で突っ込んできますから、そこをちゃんと出来ないようだとまちづくりは動きません。かくゆう私も、事務所では、企画書立てたら女性の意見を聞きます。それから、地域で開発した商品は、私の事務所で味見をしてモニターします。関係者に聞いたり、子どもに聞くと、だいたい予想したような意見が出てきます。ところが、うちの女性陣というより女の子は、“ これ全然だめです ” とか “ ここはいいけどここは好きじゃない ” とはっきり言ってくれる。それを取り入れてやっていくと商品だとか企画だとかイベントとかがおもしろいものになってきます。みなさんもよろしければまちなみ探検隊を見に来ていただいて結構です。あるいは、地域で自分達でやっていただいても結構です。実践のノウハウは市の担当課で持っていますし、私達「ＮＰＯ法人景観ネットワーク」のメンバーも手伝います。

景観形成への取り組みのヒント



それから、取り組むときに地域の方に、わかりやすくていいよといって頂いている私のヒット作です。三つの“ す ”と三つの“ る ”です。

どっちかというと、良くない方は“ す ”でいきます。引き算とかわり算で、“ なくす ”“ なおす ”“ かくす ”で、三つの“ す ”と言ったら“ もどす ”っていうのがあるじゃないか、と地域から言われました。これを４つにしようか検討中です。

それから、どっちかというとプラスの、ここいいよね、千歳らしいね、というのを足し算とかかけ算で、“ まもる ”“ つくる ”“ そだてる ”があります。十分でなかったら、“ そだてる ”ということ。いいものは育てる。無いところは“ つくろう ”。だけど、今あるやつを“ まもる ”だけじゃなくて“ ととのえる ”もあります。“ そだてる ”とも“ つくる ”とも、ちょっと違う“ ととのえる ”というのがあります。

身の回りでなにか考えるとき、３つの“ す ”とか３つの“ る ”とかで考えていくと、こうやってやればいいのかなと、ヒントになるかなと思い各地で機会ある毎に結構お話ししています。